今回はインテリア立・断面図の表現方法について解説します。まず建築での展開図に対して、インテリアであえてインテリア立・断面図という用語を使う理由を述べます。そして展開図とインテリア立・断面図の違いを比較します。インテリア立・断面図の表現のポイントや着彩方法についても触れます。このシリーズは今回をもって一旦終了とします。

- 1. はじめに
- 2. 展開図とインテリア立・断面図の比較
- 3. インテリア立・断面図のポイント
- 4. インテリア立・断面図の着彩



インテリアコーディネーターハンドブック改訂編集委員会

1. はじめに

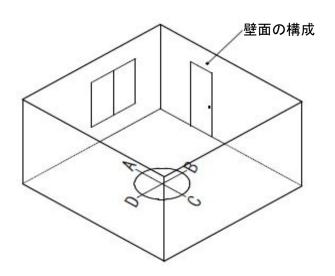
この講座の第4回インテリア平面図の時にも同じことを書きましたが、インテリア立・断面図という言葉はICハンドブックで初めて使い出したものです。従って一般的には馴染みのない図面名称です。この図面は、建築の世界では展開図と呼ばれているものです。

ではなぜ展開図と言わずに、インテリア立・断面図などというややこしい言い方にしたのかについて少し述べておきます。

基本的には、インテリアコーディネートの図面は、一般の建築図面とは表現が異なるからです。

それは(これも第4回に書きましたが)、建築の設計図書は建物(シェルター)を造ることを目的として作成されますが、インテリアコーディネートの図面は、出来上がった躯体の中(インテリア)を人が快適に使う場にすることを目的とするからです。

図1,2,3で説明します。図1は展開図の概念です。この図面は部屋の壁面の構成を見えるままに表示することが目的です。どんな形状で、窓などの開口部がどこにどうあって、巾木などの造作はこうなっていて、仕上げは何で・・・・という具合です。まあ種も仕掛けもない図面になります。四角い部屋でしたらそれを4面描くことになります。この図があればその部屋がどんな箱になるのかは分かりますね。



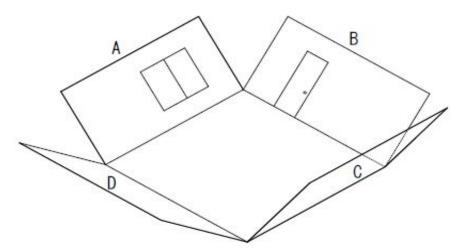


図1 展開図の概念

1.はじめに

これを応用したものが昔の起こし絵(図2)かもしれません。 起こし絵というのは、昔、茶室を設計する時に紙で作った簡 単な模型で、4面の壁に開口部や柱などを描いて組み立て たものです。展開図もこうすれば空間としての部屋を表すこ とができます。

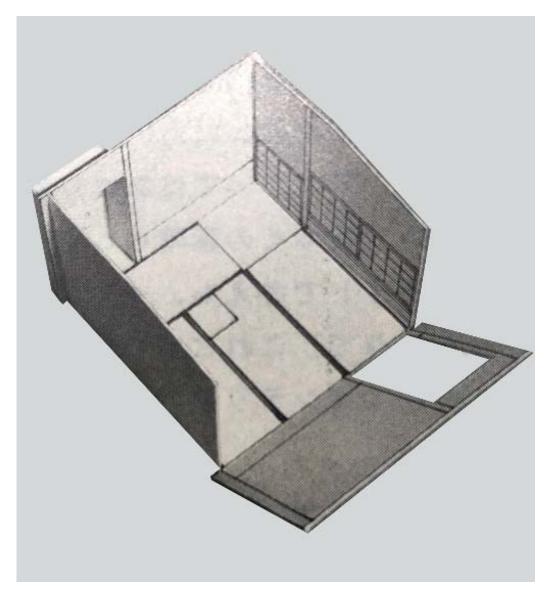
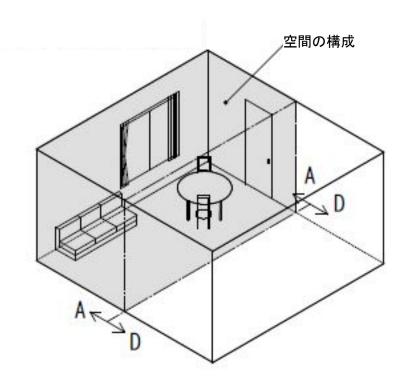


図2 起こし絵

1.はじめに

一方、インテリア立・断面図の概念は図3になると考えます。 部屋の中央部から4方を見た時の空間の構成を表します。

展開図では向こうの壁面(ビルディングエレメント)だけを描きますが、インテリア立・断面図ではその空間(グレー部分)にある様々なインテリアエレメントも描き込みます。それによって空間がどのような使われ方をするのかを表現するのです。



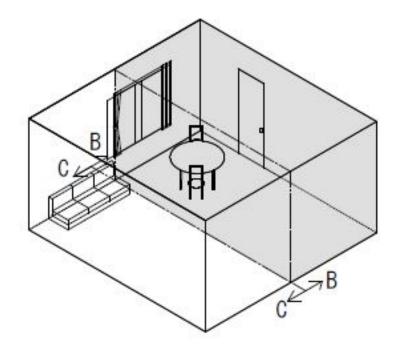


図3 インテリア立・断面図の概念

2. 展開図とインテリア立・断面図の比較

まず二つの図の部屋の中での見る位置ですが、それを図4で説明します。

展開図は部屋の中央から4方(ABCD)を見た図になります。

インテリア立・断面図も基本的には同じですが、家具などのインテリアエレメントも重要な表現の対象になるので、それらが部屋の中でどう見えるのかも考慮しなければなりません。 先述のように、この図は部屋の中央部で部屋を縦に切断して4方の空間の構成を表現するものと考えますので、切断位置を必ずしも一直線にしなくてもいいのです(例 図4の断面B-B)。

できるだけ同じ家具が二つの方向の図に出てこないように、 あるいは、大きな家具で向こうが見えなくなるようにしないた めです。

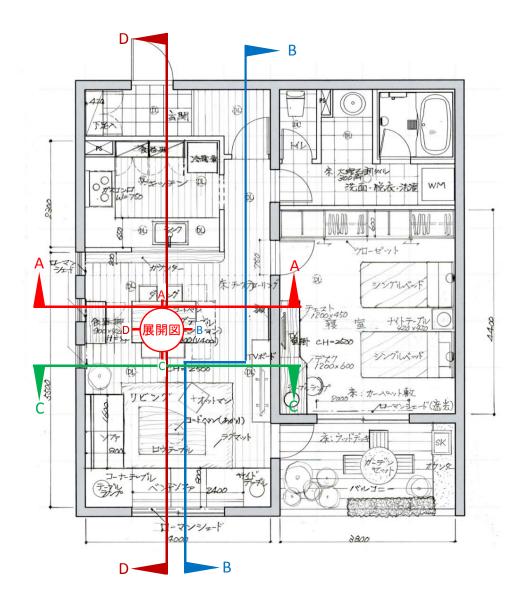


図 4 展開図とインテリア立・断面図の見る位置

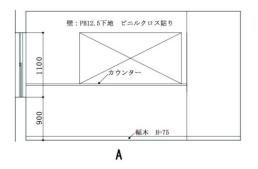
2.展開図とインテリア立・断面図の比較

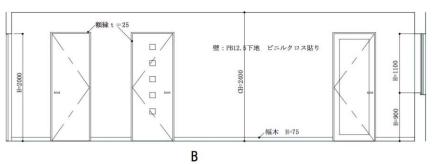
では、実際の展開図(図5)とインテリア立・断面図(図6)を比較してみましょう。

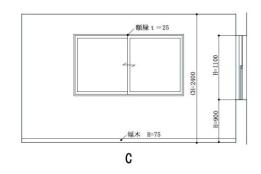
展開図は特別な場合を除き、かなりさっぱりとした図になります。向こうに見える壁面の構成を表すので当然かもしれませんね。床・壁・天井の4本の枠で囲まれた壁面にはせいぜい、窓やドア、それに収納などの造作家具が付くぐらいです。むしろこれらが見えなくなるようなものは描かない方がいいのです。

書き込みも仕上げ材と寸法ぐらいで多くありません。寸法は、 平面図では表しにくい高さ方向を主にします。建物の設計図 書はたくさん作成されますが、それぞれの図面には役割が あるので、同じことをいろいろな図で何度も重複して表現し ないようにします。相互に食い違いが起きないようにするこ とと、訂正するときに漏れが出ないようにするためでもありま す。

余談ですが、このように展開図は壁面を見たままに図にした 簡単なものなので、昔の建築設計の現場では新人の担当 になっていました(いまはどうなのかなあ・・・)。







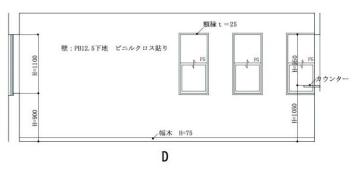


図5 CADによる展開図 (平面図は第4回のもの)

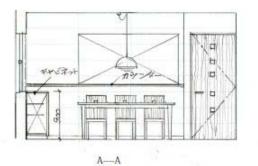
2. 展開図とインテリア立・断面図の比較

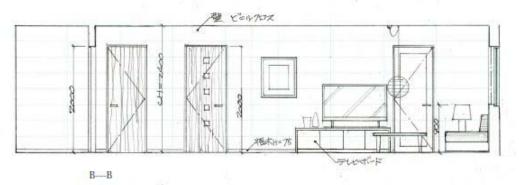
一方、インテリア立・断面図の方はずいぶんと賑やかな図になります。家具やカーテン、それにテレビやインテリアグリーンまで書き込んであるので当然です。また切断位置での家具などの断面表現もかなりしっかり描いています。建築の図面ではこういうものは建物を造るために必要ではないので入れません。

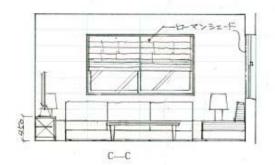
インテリアコーディネートの場合は一つの図に多くの情報を 盛り込む場合が多いと思います。つまり、ひと目でインテリ アの構成がわかるようにするためです。こうすることによって この図だけでインテリアのイメージを伝えることができるよう になるのです。

この図(図6)は3次元の表現ではありませんが、パースのような効果もあるので、空間のスケールが感じ取れるはずです。図面に慣れていないクライアントにも分かりやすいでしょう。更に、これに着彩を施せばより効果的なプレゼンテーション資料にすることができます。

(図8~11)







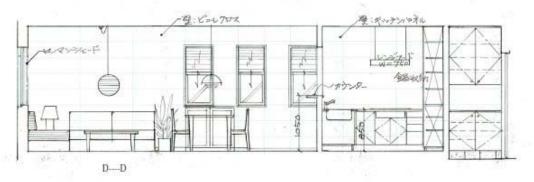


図6 手描きのインテリア立・断面図 4面(平面図は図4参照)

©公益社団法人インテリア産業協会 【禁無断転載】

3. インテリア立・断面図のポイント

- ・線の太さの使い分けは明快に 断面線は太線 建具・インテリアエレメント等の外形線は中線 木目などの質感表現や細部の表現は細線
- ・図面としての表現
 できるだけ開口部の断面を表現
 必要に応じて高さ寸法の記入
 建具には開閉記号を記入
 仕上げを記入
 家具の名称を記入
 収納家具の断面を表現
 C展開図は平面図と向きが逆になるので左右を間違え
 ないように
- インテリアエレメントの表現ウインドートリートメント、照明器具を記入インテリア小物、グリーン、絵画などを記入
- ・素材の質感表現は必要に応じて記入する 木目、布、ガラス、金属などを表現
- ・家具などの詳細表現 実際の形状がわかるように表現 台輪などディテールが伝わる表現

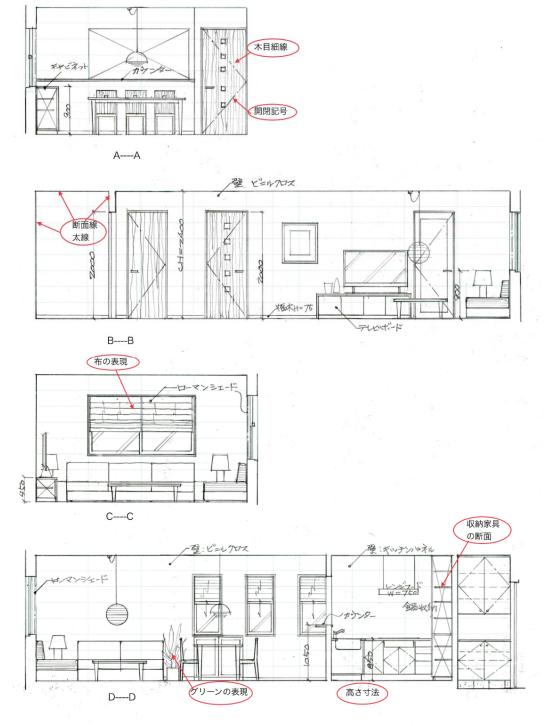


図7 手描きのインテリア立・断面図のポイント

©公益社団法人インテリア産業協会 【禁無断転載】

4. インテリア立・断面図の着彩

短時間着彩法 作業時間:30~40分

短時間で仕上げる例と、次ページに示すていねいに仕上げる例の2つの表現方法を示しました。

- ・基本は第3回質感表現の項参照
- ・下地を作る平塗りはムラなく
- ・断面を表現する色は、ここでは紫とグレーをミックスして作成

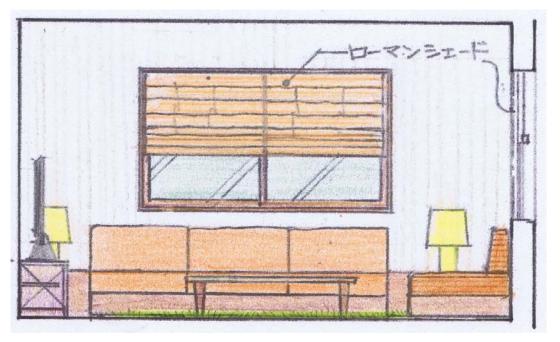
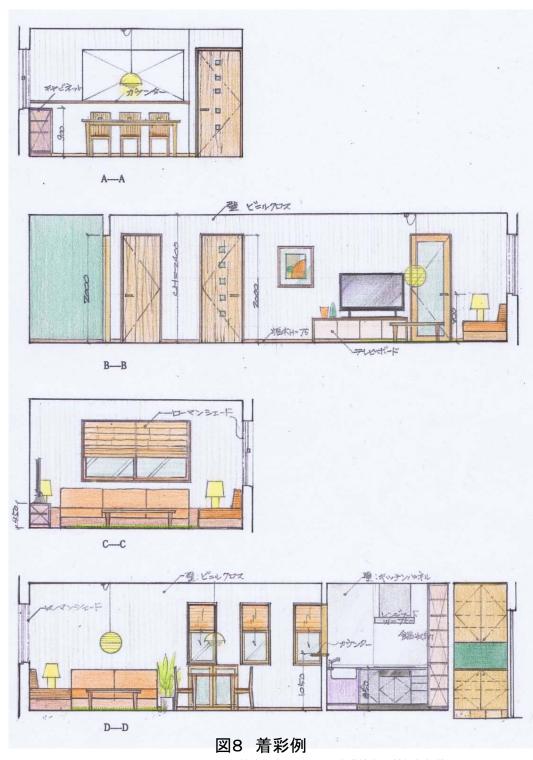


図9 着彩例 C-C 拡大図



- 4. インテリア立・断面図の着彩2 ていねいに仕上げる 作業時間:1時間
- ・下塗りは3回色を重ねて、深みのある色を作成
- ・照明器具の周りは円定規を使って練りゴムで消し、光の色を着彩
- ・ソファーのクロスの質感表現に、ここではフロッタージュを使用
- ・床にはカーペットのシャギーを表現(拡大図の床面を注意)

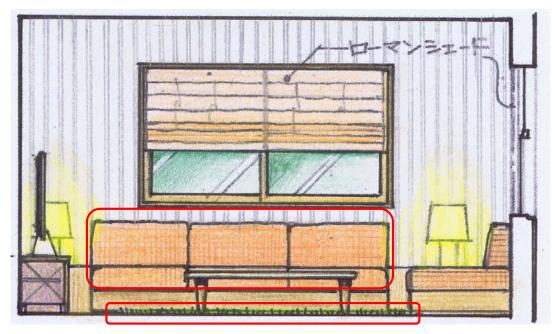


図11 着彩例 C-C 拡大図



©公益社団法人インテリア産業協会 【禁無断転載】